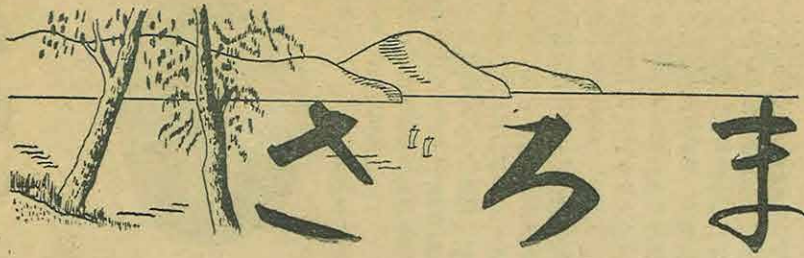


38. 1. 1 発行
 発行人 船木長一郎
 佐呂間町長
 編集人
 庶務課 庶務係
 印刷人
 佐呂間 印刷

世帯数 2,839
 人口 15,369
 男 7,713
 女 7,656
 11月末日住民登録人口



新年の御挨拶

町長 船木長一郎



皆様、明けましておめでとうございます。
 御健で新春を迎えられました

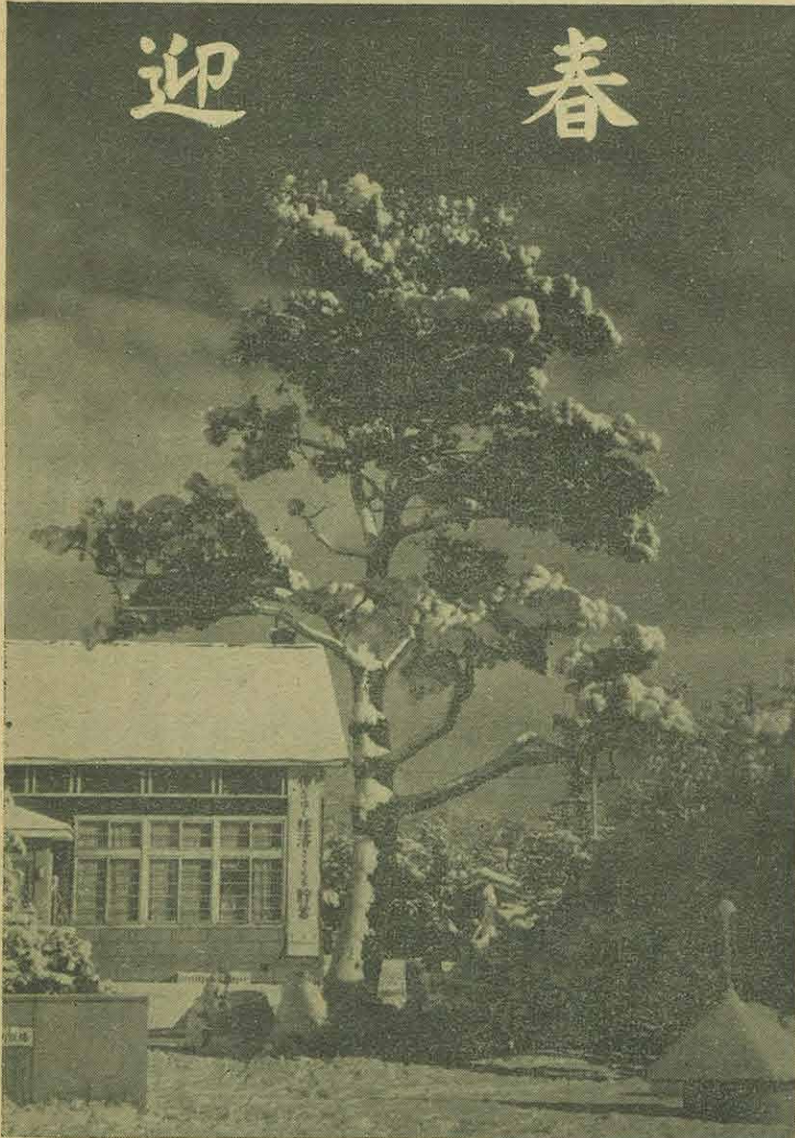
大勢のなかにはさまざまな原因により病床で正月を、或は経済的に恵まれず御子様方と暗い気持ちで元旦を過ごされた方もありましよう。斯様な御家庭に少しでも明るい正月をと思ひまして、歳末助け合い運動を展開致しましたところ、全般的な経済不況にもかかわらず多くの町民各位が御理解をいただき金品の拠出に御協力くださいました。

して尊い精神のこもった贈物が出来ましたことを心から御礼を申し上げます。
 昨年は農業が予想外の災害を受け、又林業、水産業は経済不況による価格の低落で不振であり商工業にも影響致しましたことは、誠に残念な極な年でありました。本年は国際収支の好転が予想されており、日本の第一次産業は各般に亘る経営の合理化、近代化が企業の生命を左右するだけに一層の御努力が肝要であります。

町行政については常に御支援を賜り、昨年は財政的に困難を致しましたが教育諸施設を始め公営住宅の建設、屠場の新設等一応計画通り遂行が出来ました。本年も教育施設三ヶ年計画の最終年度であり佐呂間小学校の改築、佐呂間高校の道立移管に必要な増築を終りたいと考えております。道路の整備については、学校教育と同じ様に皆様の要請も強く又、産業振興の基礎的な性格をもつており特に幹線道路から分岐した奥地の道路整備が緊要であり機械の購入を致しました。が、農家各位に春秋二回補助的な意味を含んだ貸付をしていいます関係で存分の効果を發揮することが出来ませんがともかく本年も辺地重点で整備を致したいと思ひます。

作りたいと思ひますので充分お考え置き願ひます。
 水産については、佐呂間湖の養殖事業各般に亘り質的な研究と流通対策を兼ねた養殖センターの設置を知事や水産庁に要望しており本年度予算の確保を図り三ヶ年位の間に立派な研究指導所を作りたい所存であります。
 その他佐呂間市街の舗装、端野若佐線産業開発道路の促進、佐呂間川の整備(主として若佐地区)海岸国道の改良促進、農村電化(幌岩、浪速)等産業と社会福祉進展のために国費、道費の導入を図り各位の御期待に応え他面町将来の財政確立の為町有林造林事業にも大いに力を注ぎたい所存であります。
 何卒変りなき御協力を切望して新年の御挨拶と致します。

迎春



従つて各部落に対し出来る限り私も出向きまして、立派な計画を

農業委員選挙人名簿の縦覧

次のとおり農業委員選挙の人名簿の縦覧をします。

とき 自 昭和38年1月20日 15日間
 至 昭和38年2月3日
 午前8時30分より 午後5時まで
 ところ 佐呂間町役場

年頭のことば

議長 香川嘉太郎



町民のみなさま、明けましておめでとございます。

輝かしい昭和三十八年の新春をみなさまとともに迎えることができましたことを心からお喜び申し上げますとともに、わたくしも、心がまえを新たに、郷土佐呂間町の建設に最善をつくしたいと決意しております。

でおられない多くの事実と問題が見出されるのであります。したがって町政の方向も、本町経済各般に亘る体質改善と近代化に配慮し、清新強力な施策を進めてまいらなければならぬと痛感して、いまおすが、これが解決までには今なお相当の時間と幾多の問題点が発生するのであります。まことに前途多難を予想され、この困難性に対する解決が今後におけるわれわれに課せられた大きな課題であらうと存するものであります。

われわれの携わる地方自治行政も幾多の困難と試練の道を辿りながら、住民自治の基礎確立のため漸次住民福祉の向上に徹してまいりたいと思ひますが、年とともに近代文化の発展はいちぢるしく、従つて本町における重要懸案事項も年々増加して参りまして、その実態は必ずしも樂觀は許さない現況にあります。何と申しましても町民のみなさまの絶大なる御協力なくしてはひとつとして解決することは不可能であります。

わたくしは議長当時者は議会の使命達成と、町民自治の昂揚に一層の努力を傾注し住民の福祉増進に寄与するよう当面したこれらの問題の解決に邁進したいと存じますので御指導ご鞭撻をたまわりますようお願いいたします。

尚最後に町民の皆様も充分御健康に留意され、新しく迎えたこの新春をもつとも希望に満ちた意義ある年であるよう念願してやみません。

年頭にあたつて、所信の一端を申し上げ、みなさまのご多幸を心からお祈り申し上げましてごあいさついたします。

新年を迎えて

教育長 鈴木 淳



ご承知のとおり、国内状況も貿易自由化に推進し高度の成長をめざして、政治的にも社会的にも極めて多難な年でありました。特に本町農業に至つては天候不順による農家各位の蒙つた被害は相当な額に達し誠に遺憾に存じ心から御同情申し上げます。

希望に輝く一九六三年の新春を迎へ町民の皆様は幸福と繁栄を心から祈念致します。

教育は国家自治体各個人の発展隆昌進歩の根源であることは今更申し上げるまでもありません。

本町三十七年度の予算を見まし

年頭の挨拶

北海道知事 町村金五

道民の皆様、明けましておめでとございます。

皆様と共に、輝かしい昭和三十八年の新春をお祝いできますことを、心から嬉しく存じます。

私も道政をお預りしまして、こゝに四度目の新春を迎えたのであります。任期最後の年頭の御挨拶を申し上げますことは、誠に感慨無量のものでございます。

幸い四年前にお約束申し上げました事柄につきましては、道民皆様の力添えによりまして、概ねその緒につきましたことを、心から感謝申し上げます。

かえりみますとこの四年間は、国の経済も道の産業もめざましい成長をとげたのであります。その半面、新たな社会的問題が発生

し、またチリ地震津波をはじめ、年々激甚な災害が発生いたし、数多くの被災者がでたのであります。道政の執行にあたりましては、ここに最大の配慮をしなければならなかつたのであります。

従いまして、私は、道民と共に血の通つた道政を確立することが、すべての施策の前提であるとの信念に基づき、北海道が全体として均衡のある発展をとげることに道政の最大の重点を置き、経済の高度成長からとり残される恐れのある、いわゆる日の当たらない地域や人々に手厚い施策を行なうことに意を用い、一連の辺地解消対策を進めると共に、恵まれない弱い立場にある人々の自立のための対策に力をつくしてまいつたので

あります。

決は教育が義務である以上国や道からの支出を大中に引き上げさせ限られた予算を高率的に使用することが最も必要かと思われま

すので私なりに校舎施設設備の整備については基本方針として第一点は当然なことでありまして、教育的であること。第二点は計画的であること。将来をよく見通して重複したり、途中で不要になるなどがないように、第三点は町財政とにらみ合せ、町の事業との関連も考え、あまり無理がからぬように、第四点は地域が広く学校の数も多い本町としては各地域各

校間のバランスも考慮に入れます。

以上述べまして新年の御挨拶と致します。

以上述べまして新年の御挨拶と致します。

あります。

ご承知の通り、昨年は道民がひとしく待望しておりました第二期北海道総合開発計画が閣議決定をみ、道民生活の飛躍的向上と、産業構造の高度化を目ざす第一歩がいよいよ本年から踏みだされるのであります。

私はこの計画の推進につきましても、以上の信念と基本的態度を堅持し、道民が等しく希望と喜びを享受できる北海道の実現のため率先挺身したいと心に深く期しております。

しかし、開発が真に実につき成果を上げますためには、進んで開発のにない手となり、郷土のため積極的に献身する人材が何より必要とされているのであります。

このため、私は知事に就任以来青少年の健全な育成と、産業後継者の養成に特に留意してきた所でありまして、道民の皆様におかれまして、二期総合開発計画の完遂は全道民共通の責任あるつとめとお考えくださいまして、我々の先人が示されたあの不屈の開拓者精神に毫も遜色のない郷土愛の熱情を発揮されることを心から願つてやみません。

私も二期計画策定の責任者として、これが実現のために、新たな決意の元に最大の努力をつくしこの重責を全うしてまいりたいと存じます。豊かな未来に向つて、昭和三十八年は明けそめたのであります。

郷土の発展と皆様のご多幸をせつに祈つてやみません。

郷土の発展と皆様のご多幸をせつに祈つてやみません。

郷土の発展と皆様のご多幸をせつに祈つてやみません。

佐呂間高校夜間生の生活調査より

「夜を学ぶ生徒らは、みな鉄の匂ひ土の匂ひを持ちて集ひ来」これは昨年正月、宮中歌会始めに入選した、土と題する詠進歌の一句です。この歌が入選したのは歌もさること乍ら、夜を学ぶ生徒らの匂ひが、一億の人々の胸をうち

……夜に学ぶ生徒たち……

学校は毎日午後六時に始まり九時三〇分に終る。不思議なことに生徒は始業五分前までは殆んど登校してない。どの教室も「今日は休日だろうか」と思うほど静かであるが、六時始業のベルがなるといつのまにか全員出席している

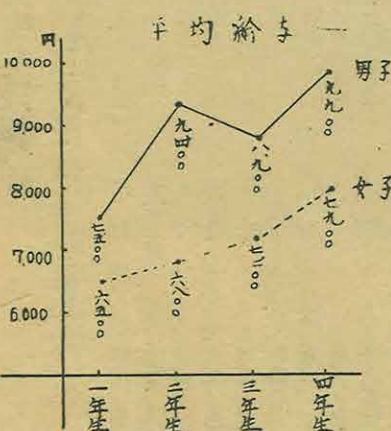
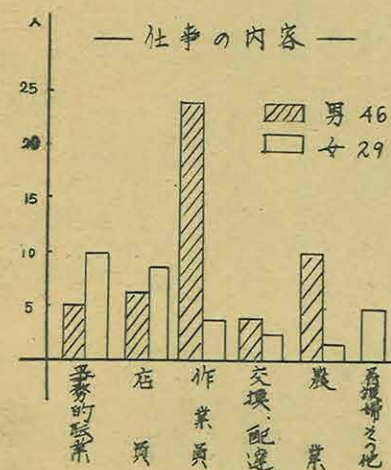
また終業のベルがなるとわずか五分間に一切のあと片付けが済み、あれほど光々と輝いていた教室は真暗闇となり、おそろしい程静まりかえつてしまふ。

このことは、夜学生の一日が全く無駄のない、きりつめられた生活であることを物語っている。午後九時半頃、十二時間労働を終えて我が家に急ぐこれらの生徒のはじめて聞く生き／＼とした笑い声を町の、人々は毎晩頼もしく聞くのである。

あすの日本を建設する上に、なくてはならぬものだからである。本町にも昭和二十三年以降、佐呂間高校定時制ができて、既に十五年目を迎えることになるが、その間、一日も休むことなく学び続けている佐呂間高校夜間生の生活を紹介してみよう。

□□□ 働くこと □□□

生徒の職業を先づ家事従事者と就職者に大別してみると大体三七の割合で殆んどが職についている。就職者の約三〇％は工場勤務が一番多く、次いで二〇％の商店勤務及び官公衛勤務となつていてこれを仕事の内容から分けると、男子は筋肉労働が一番多く、女子は事務的職業が多い。然し平均給与は男子が八、九〇〇円に対し、女子は七、一〇〇円となつていて休日にはほとんど週休制であるが、商店関係は月二回が多い、卒業後引きつづき同じ職場にいるものは全体の三分の一で、他は転職、進学を希望している。然し単なるアルバイト気分だ動いていないと云うことは使用者の殆んどが、「みんな真面目である。矢張り定時制に通うような青年でなければ」と言っていることでもわかる。



□□□ 学ぶこと □□□

午後六時から一〇分H.R.、引き続き四十五分間つづの四時間授業が行われる。学年別に商業コースと家庭コースにわかれ、教養科目及び専門科目を勉強している。商業コースは簿記三級が全員とれるように、家庭コースは食物、被服の一応の心得をもつように指導されている。昨年農業科がなくなつたので、更に農業コースを設け女子にはタイプライターの指導などが計画されようとしている。

□□□ しあわせを求め □□□

年五回の定期試験があり、平均して二十五点以下は落第となるのでみんな一生懸命頑張っている。中学校と同じようにクラブ活動も活発におこなわれ、とくに、同じ環境で共通の悩みをもつた者の集まりであるといふ意識は固い友情になつて互いにばげまし慰め合つて野球、卓球、ソフト部などのスポーツや文芸、音楽、料理部などの文化クラブに、職場のことをすつかり忘れて楽しそうにやつていようだ。

しあわせはおいらの願い仕事はとつても苦しいが流れる汗に未来をこめてと口ずさみ毎日々働いてきて学んでいる彼等を支えているものは何かそれは、未来に対する詩と夢があるからだ。彼等は将来に對してどのような希望をもっているだろうか。男子生徒の四分の一は安定した公務員を望み、次の

且て女子のバレー部が北見地区の高校代表(全定高校代表)として全道大会に出場し準決勝まで進んだことがあつた。

選手達は薄荷の草取りやビートの間引をしながら練習に励んだ夜間定時制とは誰も知らなかつたようだ。いやそれよりも選手達の練習時間からくる労働力の不足を補うために、佐呂間の先生が、選手のために農家にこつそり草取りに行つていふと云うことは今も知られていない。先生と生徒とが、渾然一体となつてはじめて楽しい学校生活となるのだ。

いて技術的職業を望んでいる。若干ではあるが毎年進学希望者もいる。これに對して女子生徒は殆んどが事務的職業を望んでいる。男女とも家事従事者が非常に少ないのは潜在的失業率になりかねないといふ深刻な農村問題が反映しているのかもしれない。次に夜間生の、いまもついている一番大きな悩みをあけてみると、次の二つに集約される。

一、勤労と学習の両立 二、卒業後の不安

佐呂間高校は現在二六七名の卒業生を出しているが此の生徒が入学したときは五九五名もいたのである。つまり四五％しか卒業できなかった。このことは勤労と学習の両立のきびしさを物語っているのである。

卒業後の不安は「なんとかなるさ」と云う甘い考え方が夜間学生にはもう我慢できないので(彼等はそれほど現実を知っているのだらう)たえずつきまとう心配となつていようだ。これらの問題に對してどのように

□□□ けやきの如く □□□

忙がしい四年間を終えて、更に東京の大学に進学した某君から寄せられた手紙の中に「佐呂間で薪を切つていた頃がなつかしい。東京でのアルバイトはやすりで大きな鉄材を切ることで。三時間も切つていると大切なベンが握れなくなり。でも大分なれてきました……」と。

またある製薬会社に勤めている一人は、同僚のB・Gと結婚したその女性から「まだお目にかゝらないお母様にこんなことを申しては何んですが、夫は会社でけやきというあだ名がつけられています……」とオホツクの冷たい風が吹きすさぶ佐呂間では、永遠にあの高価な「けやき」は育たないはずであるにもかかわらず、あのねばり強い堅牢な「けやき」が育つていたと云うことを知つていただきた。不可能なことを可能にさせるのが夜間定時制のすべてかもしれない。

世の中には賢い人が必要であるしかし、ねばり強い、どのような風雪にも耐えることのできる人もまた必要なのである。このように佐呂間高校夜間生を理解し、その将来を見守つてやつてほしいものである。

みんなで明るいお正月

歳末たすけあい運動の結果

町内に住んでいる方たちのうち病氣や経済的な理由で、恵まれない不幸な人達に愛の手をさしのべ「みんなで明るい正月」を迎えるため、十二月一日より十五日までの十五日間才木たすけあい運動を実施しましたところ、町内多数のかたから暖かい心のこもった金品を寄贈戴きました。

これら寄贈して戴きました金品



(物資を配分する佐呂間婦人会員)

二、衣料品 一、一一九点
三、食糧品 米 六斗八升五合
麦 八斗九升
小麦粉 三升
豆 一升

尚この金品を寄贈していただきました次のかたがたに対し紙上をもつて厚く御礼申し上げます。

は、町内各自治会長、民生委員の協議を経て提出された名簿により佐呂間婦人会員の御手伝いを戴き公民館で個人別に分けて年末に町内の不幸な家庭にそれぞれ配分しました。お正月を迎えていただき寄贈をうけました金品は次のとおりです。

一、義損金 一〇〇、三〇二円

佐呂間町議會議員一同 一三〇〇〇円
役場職員一同 一八二三〇円
佐呂間農協職員一同 三七三二円
仁倉自治会一八七〇円 山崎ヨシ子衣類一〇点 三和商事KK衣類一三〇点 佐呂間母子会一〇〇〇円
佐呂間営林署婦人会衣類一三七点 佐呂間漁組婦人部八〇〇円衣類一〇点 富丘自治会一七七〇円衣類四三三点 若里農協婦人部三一八〇円衣類二九点麦二升豆一升東農協婦人部一六五五円 北自治会二八三五円 浪速婦人部一〇六〇円浜佐呂間自治会同婦人部三六一〇円衣類五〇点 知来自治会三五五〇円米一斗麦一斗七升 部田菊一衣類四點 共立自治会一〇七〇円衣類七六點米八升五合麦七升五合小麦粉三升 大成自治会四六一〇円 啓生自治会二〇〇〇円 栃木自治会二〇八〇円衣類六五點米二斗四升麦一斗八升五合 朝日自治会二〇〇〇円 武士自治会二七九〇円衣類八五點米九升 中園川西自治会一六二〇円衣類二八點米七升 若佐自治会四二二〇円衣類一九一點米一升 瀬戸徳太郎麦二斗六升 佐呂間厚生病院職員一同五〇〇〇円 西富自治会三九七〇円衣類三二点 佐呂間婦人会衣類二三〇〇点 西富婦人部六〇〇円 台風義損金一四〇五〇円

(以上敬称略)

配分状況は次号で報告します。

各地区民生委員が

新しく任命されました

新しく町内各地区の民生委員が決りました。

民生委員は社会奉仕の精神をもつて保護指導にあたり社会福祉の増進に努める任務をもつて知事より任命されるものです。

民生委員は個人の人格を尊重しその身上に関する秘密を守り、地域住民の生活指導、保護にあたりますので生活保護などの問題は安心して相談できる人達です。

新しく任命された民生委員は次のとおりです。

西 富	安藤 薫	川滝虎之助	西沢 兵三	伊藤 太郎	久保すみ子	富木 政子	田岡 松久
北 宮前町	宮前町	西沢 兵三	伊藤 太郎	久保すみ子	富木 政子	田岡 松久	
永代町	伊藤 太郎	久保すみ子	富木 政子	田岡 松久			
東	田岡 松久						

新倉 部田 菊一
浜佐呂間 杉森 勇
浪 岩 諸岡 一技
浪 速 鈴木 三蔵
富武士 芦沢 吉夫
若 里 葛西義太郎
富 丘 鈴木 市郎
朝 日 鈴木 義雄
武 士 川又繁太郎
若 佐 大西宗太郎
川 西 阿部 徳雄
中 園 佐々木篤四郎
栃 木 小西文太郎
啓 生 越後 司
共 立 豊田 好勝
知来地区、栄地区の二地区は欠員になつていますが現在推せん中です。

「村づくり」「町づくり」と簡易

保険、郵便年金、郵便貯金のゆくえ

御加入者が毎月郵便局に払い込まれる保険料は、積み積つて現在では二兆円にも達するほどの大金額となりました。このお金は、やがては皆様のお手もとに保険金や配当金としてお返しするものですがそれまでの間も、各方面に運用されて世の中のために利用されています。これは利息などの収入をあけて、御加入者の御負担を軽くする目的を持つとともに、皆様の身近な公共事業や公共施設の資金となることによつて、直接「村づくり」「町づくり」に役立ち、あわせて日本経済の発展のうえにも大きな役割を果しているのです。

この資金は、おもに都道府県、市町村などや、農林漁業、中小企業住宅国民金融公庫とか、住宅公団その他を通じて学校、住宅、病院橋などとなつて、皆様の生活と直接結びつくわけですが、また災害などの応急復旧工事については、特に迅速な貸付を行なつてお役に立つております。このように皆様が簡易保険、郵便年金や郵便貯金に御加入なさることは、御家庭の生活安定と将来の御希望達成のために必要であると同時に、あかぬい村、住みよい町の建設のためにも大きな貢献をされることになるわけです。三十七年四月から簡易保険の保険金最高額が五〇万円まで引き上げられて、国民の長年の要望にお答えできるようになりました。また加入者福祉事業団が新しく設けられ、御加入者に対するサービスも向上することになります。これらのことを機会にいたしきしてさらに皆様のお役に立つよう一層の努力を重ねて参りたいと存じております。尚本年度佐呂間町に於ては、佐呂間小学校新築工事費七〇〇万円、屠殺場新築工事費五〇〇万円が融資され近代建築方式がとりいれられ、学びやすい校舎家庭の食卓にうるおいを増すことができることになりました。

新有権者の皆さんへ

成人式をあげられる皆様おめでとうございませう。

ことしの誕生日から皆さんは名実ともにつばな社会人として責任ある生き方を求められるわけですから、今までももたしていろいろと考へなければならぬことがたくさんあります。まず第一に考へなければならぬのは法律の上でも成年者として完全な行為能力が認められるということです。

中でも国民として最も大きい権利である参政権、すなわち国会議員や知事、市町村長、議会議員等の選挙権が得られることです。ですからこの機会に私たちの住んでいる北海道や町、あるいはわが国の政治のしくみなどどうなつていくかを現実の日常生活と結びつけてぜひ考へてほしいものです。今後数多くの選挙権を行使する機会があります。清く正しい一票を行使するよう期待します。

広報「さるま」は、町政のいろいろなことを知つていただくため、毎月一回発行し、自治会長を通じて全世帯に配付しております。はさまの建設的な御意見や質問は庶務係へお寄せ下さい。